

1. 採点上打ち合わせた事項

今大会も新型コロナウイルス感染予防対策として、事前にオンライン審判研修をプラスして行い、新ルールの確認と映像を使つての採点研修により今大会の採点基準の確認を行った。

【個人DB】

事前のオンライン研修の内容に基づいて、ルールの確認、見解の統一を測つた。

DAとRでもぐりを使用している場合。先にDAでもぐりを使用していた場合は、Rの追加基準DB0.1は無効。W(全身の波動)については、DBとRを追っていきながらWとして認識されるには明確な実施が必要となってくるので、書きとれないレベルのWは無効とし、構成に不足があった場合、減点とした。また実施していたとしても明らかな上半身(全身でない)のみの波動は無効

『DB』

・コンバインDBを実施する選手が正しい方法でコンバインしているか(支持脚の変更等)、また手具操作がそれぞれのDBにあるか、また単独となった場合にDBの個数を確認し、最も高いものからカウントする。

・大きな誤差は今までのルール同様ノーカウントとする。

・同じ手具要素でのDBは最初に行われたDBのみ有効とする。

『R』

・回転要素の繰り返しがなく、また空中下で必ず2回転あること、高さが身長2倍あることを確認する。

・Rの中に回転を伴わないDBが含まれていないか確認する。入っていた場合ノーカウントとする。

・ボールでは、床からリバウンドしダイレクトに取り戻す追加基準を行う際、手以外と一緒に実施されているか、また膝の位置より高くないか確認する。

・リボンでは、受けの際に必ずスティックを受けているか確認する。

『W』

・頭から骨盤を通して足元まで連動しているか見極め判断する。また、手具が動いていることを確認する。演技中に最低2つの全身波動が入っていない場合、波動の各不足に対して0.3点の減点をいれる。

【個人DA】

・DAのベースがN/Aになっている基準や、手以外で行わないとDAにならない基準を確認(フープにおける回しと軸回しのDAベースの確認を行った。回しでは手以外必須+2個基準が必要。軸回しにおいても手以外が必須+1個基準が必要)

・ベースの回転360°の有無

・高い投げの予定が小さな投げのDAになった場合のカウント方法

・視野外について、映像を見て有効・無効の確認(基準のDBが繰り返された場合、DAも繰り返されたものがノーカウントになる)

・投げの高さの確認

・DBを伴うDAについて、DB有効・無効の確認

・DA一覧表より、ベースの詳細確認

・回転360度の確認

・基礎手具技術の確認

・プレアクロバット要素の確認

【個人・団体A】

事前のオンライン研修と当日の映像研修をもとに、A審判として評価できる作品はどのようなものか、新ルールでの評価・減点すべき内容について確認を行った。

・新体操ではダンスステップだけではなく、演技全体を通して作品のキャラクターを演じる必要がある。ダンスステップ以外の技と技の間をどのように演じているかを見て、A(芸術)の大きな減点となる。

『動きの特徴』の評価をすることを徹底した。

『ダンスステップ』は個別に評価される。そもそも構成にない場合も0.5の減点となるが、ダンスステップにキャラクターがあるかも重要なチェックポイントとなる。単純に手具操作を実施してリズムにあっているだけではなく、その音楽の特徴を手具と身体の動きで表現することが必要である。

『ダイナミックな変化』は個人では2回、団体では3回必要である。音楽さえ変化していれば減点がないのではなく、その変化を選手たちが動きで表す必要がある。

『身体の表現』では、前回までのルールで団体は特に、連係を詰込み手具の投げ・受けばかりで身体全体が使用されていなかった。手だけ、脚だけでなく、一つの動きであっても、頭・手・腰など全身を使用したダイナミックな動きが求められる。また団体は5名の選手がいるので1名の選手だけ表現や動きの大きさがあっても意味がない。5名の選手間で統一され、洗練されている動きの大きさや、エネルギー感が重要である。

『身体・手具の効果』効果は英語でエフェクトである。単純なものでも、音が明確に盛り上がる場所にもっていくとそれだけで複雑さがでる。団体では2分半ただ連係・交換・身体難度を単調に実施するのでなく、記憶に残る瞬間、後で振り返った時にチームの特徴となるような瞬間を作り出しているか、団体では2回のエフェクトが必要。

『統一性・つながり・リズム』大きな落下などがあった場合、その現象についてはつながりで減点するのではなく、統一性0.3減点で一括して減点する。ただし、リズムについては落下などで音楽と不一致があった場合、その度合いに合わせて減点を入れていく。

【個人、団体E】

E(実施)については、新たな減点項目の確認と団体競技における各選手の減点及びチーム全体の減点項目について確認した。具体的には映像研修を行い、落下・移動・DB・四肢の減点箇所を確認し、見方を統一した。

2. 採点上起こった事項とその処理

【個人DB】

理解不足か、ミス回避でそうなってしまったか不明であるが、垂直軸回転の繰り返しが多かった。足を曲げていても、伸ばしていてもプリンチック(空中での回転)はRで一度しか使用できない。投げの高さについてもフープとボールの回転開脚ジャンプの投げや前方投げなど、やや高さが不足に見えるものもあった。クラブの吊り下げの手具操作について、ルールブックの絵をもう一度見てほしい。数名の選手が内側持ちの実施でローテーションが無効になってしまった。

【フープ・クラブDB】

『DB』

・DBと手具操作のタイミングが合っていないものはノーカウントにした。(フープで特に多かったのはバックルターン中のくぐり抜け操作。クラブで多かったのはジャンプ中の打ち操作。)

・DB中に誤差減点0.5が入るものはノーカウントにした。

・コンバインDBに挑戦している選手が多くいた。コンバインの接続時にホップを伴ったもの(それぞれのDBは正確に行われていた場合)は2DBとしてカウントした。また、コンバインの2番目のDBに手具操作がなかったケースでは、1番目のDBのみ単独でカウントした。

- ・フェッチバランス中に含まれていた DB を単独 DB として繰り返すケースが数件あった。あとに出てきた DB は繰り返しとしてノーカウントにした。
- ・クラブの不安定な位置でのバランス操作を内側で保持していたものについてはノーカウントにした。
- ・空中下で単独ジャンプを行ったあと、別の DB を高い投げを伴って行ったケースがあったため、あとに出てきた DB をノーカウントにした。

『R』

- ・空中下で2回の基本回転がないものはノーカウントにした。特に2回転目が実施度により360°足りないケースが多かった。
- ・垂直軸グループでは1グループの「空中でのジャンプ/スキップ/ホップ」の繰り返しが多かった。
- ・音楽終了後に受けたRについてはノーカウントにした。
- ・イリュージョンのシリーズをRで行う際に、受けながら最後の回転を行う場合、受けてから回転を行っていたものはノーカウントにした。

『W』

- ・ルール of の定義に基づいて「頭から骨盤を通して足元まで連動しているか」を見極め判断し、Wが不足している場合には減点を入れた。
- ・実施度により頭が動いていない、または上半身だけになっている場合もあり、そのようなものはWとして認識しなかった。
- ・Wを行っているが手具が静止しているケースも見受けられた。

【ボール・リボンDB】

『DB』

- ・9個を超えるDBを行っている選手がおり、高いものから9個カウントし10個目をノーカウントとした
- ・コンバインDBを実施しようとしたが、実施方法により、それぞれを単独でカウントするケースも起こった。
- ・投げ・受けの手具要素を伴ってDBを実施する選手(特にジャンプターン)は、投げの軌道により、ジャンプの誤差を生じる選手がおり、0.5に実施減点が入るDBに関してノーカウントとした。

『R』

- ・空中下に2回転ない選手が数名おりノーカウントとした。また、回転要素の重複があったものに関して、2個目に出てきたRをノーカウントとした。
- ・リボンの受けで布を受ける選手はいなかった。

『W』

- ・上半身は動いているが、足元まで連動していない選手がおり、Wとして認識できなかった。また、ステップ中にWを入れている選手でつなぎのようにはしか見えないケースもあった。はっきりとWが見えない選手には不足に対しての減点を行った。

【個人DA】

フープの転がしと受けの2つのベースのDAについて。手の向きに関係なく転がす瞬間に視野外を通過していないものは、視野外が認められない(DBや回転の基準があるものはカウントできるが、ただ転がしていたものはノーカウントにした)

フープとボールで手から肘まで転がし、そのまま投げるDAの実施が多く見受けられたが、転がしは手から肘まででは2部位にならないので大きな転がしにはならない。小さな投げとしてカウントしようにも、投げる瞬間には手以外しかない実施が多かったため、回転などと明確に組み合わせる必要がある。

リボンではニュースレターに掲載されている視野外の位置の螺旋の認識にまだ不足があると感じた。リボンが視野外にあっても腕の位置が身体より前にあった場合、視野外にはならない。DB中に螺旋などでこの点に不足が多く見られた。

DA がノーカウントになる理由で 1 番多かったのが、基準の回転が 360 度ないことであった。ベースの操作をしている最中に本当に 360 度回転しているか、確認が必要である。

【フープ・クラブ DA】

『フープ』

- ・ 2 個の手具ベースで DA が行われた際、基準の視野外に関する条件を満たさないケースがみられた
- ・ 回転 360 度（基準）がなく、ノーカウントとなるケースが多かった。特に垂直軸のものは、小さいミスによって 360° に満たない状態で技を終えてしまうケースがみられた。
- ・ 転がしながらの回転で、転がした後に回転するケースがあった
- ・ ミスによって基礎手具技術がなくなってしまった選手がいた
- ・ 視野外受けの際、視野外の条件を満たしていないケースがあった。特に甲座りで受ける際、視野外にならないケースが多かったように感じた

『クラブ』

- ・ 回転 360 度（基準）がなく、ノーカウントとなるケースが多かった
- ・ 手の補助なしでの持ち替えの際、基準を満たしていないケースがあった（基準が座のみである等）
- ・ 風車での回転（視野外）の際、手首が離れすぎていて風車が見えにくいケースがあった
- ・ DB を伴った高い投げの際、DB がはっきり見えないケースが数件あった
- ・ 基礎手具技術の非対称が分かりにくいケースが数件あった

【ボール・リボン DA】

『ボール』

- ・ 基礎手具技術要素の不足がある選手が何名かいた。片手受けは、DA で行うつもりが出来なくなってしまったか、R でも良いと勘違いしているの可能性もあるように感じた。回旋（8 の字）は 2 つの円が見えないものや 2 つっ入っていない選手がいた。
- ・ ボールは高い投げのつもりが高さ不足で小さい投げでカウントしたケースがいくつかあった。
- ・ 視野外位置や回転の 360° が不明確でノーカウントのものもいくつかあった。

『リボン』

- ・ リボンでは、螺旋の形が不明確でノーカウントになるケースがあった。特に座や床状でかいているもの。
- ・ 視野外位置や回転の 360° が不明確でノーカウントのものもいくつかあった。
- ・ リボンの中くらいのかきは演技の中に出てくると少し分かりづらく感じた。

【個人 A】

- ・ ダンスステップの評価が難しいと感じることがあった。評価できない場合 0.5 という大きな減点になるため、8 秒はあるが音楽との一致やクオリティにやや不足がある場合の判断が難しかった。DA を入れることにより中断し 8 秒に満たない、8 秒はあるがクオリティがついてこないものも多かった。
- ・ ダイナミックな変化について、音楽のチョイスが良く、音楽がダイナミックな変化を促しているが、選手の動きが変化しない場合もあった。演技が単調のままであることもあった。ダイナミックな変化が 1 つは見えるが、2 つははっきりと見える選手はほとんどいなかった。
- ・ 動きの特徴について、強烈な個性のある演技、演技の大部分で表現できている選手は少なかった。身体の表現、手具／身体の効果の不足、フロアの使用も行ったり来たりとなったり、直線的な使用であることが多かった。

【個人 E】

投げの不正確による 1 歩移動の減点が多くあった。DB については誤差の減点も多く、コンバイン身体難度や DA との組み合わせ、全身の波動など新ルールに対応した演技構成をしていたが正しく行われていない為、減点がある選手が多かった。バランスが止まれている、ローテーションの脚の位置、ターンジャンプシリーズの開脚度の誤差などの減点があり、選手が能力以上の難度に挑

戦するケースも見られた。また、回転系の動きに身体の緩みがみられる選手も多くいた。4種目共に選手の質と実施力を見極め採点した。

【団体DB】

高さや距離両方あるラージの交換は数チームしか見受けられず、距離も高さもないと判断した DE はノーカウントにした。理解不足というよりは、その前の連係のミスによって予定していた場所にいかず、距離がなくなってしまったように見えた。特に軸回転の投げは低く見えるので、距離の徹底が必要である。

『DB』

- ・フェッテピボットで手具操作が不明確なケースが数件あった。（くぐり抜けが2部位通っていない、持ち替えのタイミングなど）
- ・DBの誤差減点0.5が入り、ノーカウントになるケースが数件あった。特に多かったのはジャンプの開脚誤差。
- ・演技中に10個より多く難度を入れていて11個目のDB/DEがノーカウントになることがあった。
- ・フェッテバランスの3つの形が見えず、ノーカウントにするケースがあった。
- ・最低1個のジャンプを同時でなくサブグループで行っていたケースがあり、「各身体グループからの1難度が5名全ての選手により同時に実施されていない0.3」の減点を入れた。

『DE』

- ・高さも距離もないDEについてはノーカウントにした。
- ・5名のうち数名が基準を実施できず基準がノーカウントになることが多かった。
- ・サブグループで交換をする際に、最初のグループが受ける前に次のグループが投げているケースがあり、ノーカウントにした。
- ・大きい投げを狙って実施しているチームが多かった。高さもあり、距離も8メートルあるものについては大きい投げとしてカウントした。

『R』

- ・高さがなく、または回転不足でノーカウントになるケースがあった。
- ・方向やサブグループの定義が満たされずノーカウントになったケースはほとんどなかった。

『W』

- ・5名のうち数名がWの定義を満たしていないケース、上半身のみになっているケースがあり、不足のWに対して減点を入れた。

【団体DA】

- ・CCが3回の連続ではなく、2回に見えるものが多かった。こちらは理解不足に見えたのもう一度確認が必要である。
- ・CCについて、連続的な実施・同じ動作の実施となっておらず、ノーカウントとなることがあった。主要動作自体が小さい・明確に行われず見えにくいこともあった。
- ・複数投げは、前ルールに比べると大きさが出たが、やや投げの高さが低いことがあった（3本のうち1本が小さいなど）。おそらく投げの技術的ミスにより、2本のみで同じ方向に投げられる、もしくは180度反対方向ではなく、やや180度より角度がついて斜めに投げられるものもあった。
- ・CR2やCR3で追加の基準が1名のみの実施となることも多かった。また、時差の実施では正確に実施しているか目視しにくいこともあった。
- ・CRで360度の回転がない、選手上の通過が不正確（身体の中央部を通り切れない）な場合や、直前のミスにより連係が実施できず連係の必要数に満たない場合もあった。
- ・特有の基礎手具要素がミスにより実施できず不足する、あまりにも時差で実施するなど目視しにくいことがあった。減点が入るケースもあった。

【団体A】

- ・共同作業が見えにくい。特にコーラル。カノンもカノンとして行っているのか、5人がズレずれてしまったのか分かりにくい実施もあった。
- ・エフェクトはこの強い音で投げようとしているのは分かったのですが、音と投げがズレてしまっていることがあり、採点していてエフェクトとして見て良いのか悩んだ。
- ・ダイナミックな変化のために曲に変化は見えたと、選手たちの動きやパワーの変化があまり見えず減点が入ってきた実施もあった。
- ・キャラクターは見えてきても全身での表現や動きという部分ではまだ固さや小ささを感じた。
- ・新ルールで初めての大会でもあり、ミスや移動などのバタつきが多く、統一性で一括の減点が入ったりつなぎ・リズムでも減点が増えてきた。
- ・芸術で見る項目が増え、見落としがないかなど不安な部分もあったがそのチームの作品やキャラクターを見やすくなった。点数で差もつけやすくなったようには感じた。

【団体E】

個人同様、コンバイン身体難度、バランス、基礎技術での減点が多かった。3月の大会ということもあり、同時性に欠ける、不正確な軌道により移動して受ける、フープの不正確な操作と受け等の減点が目立った。全身の波動はほとんどのチームに減点があった。質の高いチームが構成上ハイリスクな内容に挑戦していたが、ミスや移動が多く残念であった。8月のインターハイに期待したい。

3. その他特記事項・意見・感想等

【団体DB・個人フープクラブDB 松田 桜】

新ルールになり初めての試合でしたが、新ルールの求めているものを理解し、表現しようとしている作品が多く、前サイクルとの違いを感じることができました。特に団体ではそれぞれのチームの目指すテーマとカラーが明確で、実施度も高く、新ルールに柔軟に対応している高校生の力に感動いたしました。

コロナ禍の大変な状況の中で大会運営して下さった開催県である熊本県の先生方、関係いただいた全ての方々から感謝申し上げます。そして今大会に審判員として参加できたこと深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【団体DA・個人A 佐藤なつみ】

新ルールでの最初の全国大会に携わる機会を頂戴し、心より感謝申し上げます。

コロナ禍でこれまで通りの練習ができない選手・チームもいらっしやっただかと思えます。さらに、今大会はルールが一新する中であり、短期間で演技構成を変え、演技を創りあげ仕上げてきたことに対し、本当に素晴らしいと思っております。

しかし、ミスが出る選手も多く、まだ練習不足であるとも実感しました。特に芸術については、新ルールの芸術の目線を選手自身まだ理解しきれておらず、難度の羅列であったり、旧ルールの名残を感じることもありました。手具操作や身体難度のレベルはますます向上していると思えたので、よりテーマのある演技が今後増えていくと良いと思えました。

団体DAでは、1つ1つの連係にかける時間が長くなり、より丁寧に実施しており、連係の多様性も見えてきたように思います。追加の基準は全員で同じ実施をすることが必要になりましたが、ミスなどにより全員が実施していないことが多くありました。落下の明確なミス以外にも、全員が正しく基準をやり切ることも今後求められると感じました。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり、高体連・熊本県の皆様には大変お世話になり、心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

【団体A・個人ボールリボンDA 浪江晴菜】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

個人ではDAを、団体ではAを見ましたが団体では作品の特徴やキャラクターを昨年より感じられました。新ルールになって間もない中、またコロナで思うように練習ができない中、まとめ上げてきた高校生のレベルの高さを感じました。これからミスや移動が減ってさらに仕上がった作品を見るのが楽しみに思いました。

コロナがいまだに落ち着かず大変な中、開催されました熊本県の先生方、役員の皆様、全ての方々に感謝申し上げます。貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。

【団体E・個人E 小寄さゆり】

出場選手たちが短期間で新ルールに対応し大会に臨んだことは高校生の力強さを感じました。実施ではミスがあったものの、音楽の選択・動きの選択等ルールに対応しながら挑戦する姿に感動しました。

終わりにになりましたが、コロナ禍での大会開催、さらに新ルールでの初めての全国大会という事で、多くの方々にご尽力頂き感謝致します。競技がスムーズに進行されたことは記録システムを始め、見えないところで多くの方々に支えて頂いたおかげです。特に開催地熊本県の役員・補助員の皆様、審判業務を支えて頂いた日本体操協会審判本部の皆様ありがとうございました。

【個人ボールリボンDB 高比良 萌】

コロナ禍の中、感染対策をし、安心して大会が開催されるように計画・運営してくださった熊本県の先生方に感謝申し上げます。また新ルールでの大会で審判させていただき大変貴重な経験となりました。試合に向けて丁寧な研修を行っていただきました、鈴木先生、栗原先生にも大変感謝しております。この大会の経験を生かし、正確なジャッジができるように研鑽してまいりたいと思います。ありがとうございました。

【個人フープ・クラブDA 千羽真理子】

新ルールになって初めての全国大会ということもあり、審判をするにあたって例年以上の緊張感と責任感を感じながら採点させていただきました。

新ルールが伝達されてから大会までの期間が短かったことに加え、コロナ禍で練習場所がなかった選手やチームも多くあったのではないかと思います。しかし、個人4種目、また団体を全国の舞台上で堂々と踊る選手たちを見て、選手や指導者の熱意をひしひしと感じた。また心に残る作品にも出会うことができた。

コロナ禍で大変な中、スムーズな運営をしてくださった熊本県の役員の皆さま、本当にありがとうございました。また、このような大会に審判員として参加させて頂きましたことに心より感謝申し上げます。

【副審判長 栗原 悠】

新ルールとなってから初めての国内公式戦となり、試合を通して選手・監督の奮闘ぶりが窺える大会となりました。個人は1日4種目とタイトな日程で戦うタフさと新しい構成をやりきるところまで安定できていない様子でミスが多い印象でした。しかし、ミスがなくともルールが変わった、芸術の面で変化見える！というところまではまだほど遠く、技をルールに合わせて構成し踊りきるので精一杯な実施でした。これから夏のインターハイに向けて、そこに大きな変化が見えればもっと一人一人の個性・良さが生きてくると思うので期待しています。団体は、短い期間で仕上げたとは思えない素晴らしい完成度でした。以前のルールより、チームの個性も見え、審判側から見ても点数がつけやすい、評価しやすいルールになったことを感じました。ここまで積み重ねた実施度の高さと芸術性を欠くことなく、さらに複雑なことや、高い加点に挑戦していくことができればさらに高校生の団体のレベルがあがるのではないかと今後が楽しみにになりました。個人も団体もコロナ禍で部活動もままならず大変な思いをしながら、新ルールに奮闘された姿に心が動く瞬間がたくさんありました。この貴重な場に審判員として参加させていただきましたこと改めて御礼申し上げます。

す。最後になりましたが、開催地の熊本県実行委員の皆様、高体連専門部の皆様、コロナ禍、そして新ルールという大変な状況下での試合運営・準備等本当にありがとうございました。この貴重な経験を今後の審判活動に活かしていきたいと思えます。

【審判長 鈴木あおい】

まずは、開催地熊本県また各地の蔓延防止措置法が継続されるこのような状況下にも関わらず、たくさんの方々の協力のもと試合が無事開催され、審判員として参加させていただけたことに心から感謝の気持ちでいっぱいである。ルールの変更がある中、長く続くこのコロナ禍で恐らく練習が思うようにできなかった選手、チームも多かったと思うが、それでも選手たちのこの試合に懸ける強い思いを感じることができた試合であった。そんな選手や指導者の熱い願いや思いに対し私達審判団がすべきことは、やはり誠実に演技と向き合い、正しい採点をするのであり、それでも新ルールであるということにとらわれ過ぎずに、焦らず、そして自信を持って採点していくことを呼びかけ、自身も心がけた。

新ルールにも関わらず、各選手、チーム共に大変熱心に勉強され、準備してきたことが演技の一つ一つから伝わってきた。特に団体では、短期間での準備にも関わらず完成度の高いチームが多く大変感銘を受けた。しかし、中にはルール上ノーカウントになってしまうケースだけでなく、実施不足でノーカウントになってしまうケースも見られ、指導者に限らず選手自身がルールを理解しフロアに立つことの重要性も感じた。また新しいプログラムをこなすのに必死となり作品を演じきるころまでに至っている選手、チームはまだ少ないことも感じた。今後はより新しいルールを深め、さらに作品構成の見直しと共に、作品を伝えきる実施力と共に、正しさ、美しさを忘れずに、作品を演じ伝えられるようになっていくことを期待している。

最後に、ルールが変わり初めての全国大会審判長という大役をいただき沢山の不安を抱えながら迎えた試合でしたが、最初から最後まで見守っていただいた長谷川副会長、地元役員として試合運営いただきました競技部長の岡田先生をはじめ熊本県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、そして副審判長の栗原先生をはじめ本部派遣の先生方に、沢山の支えをいただきながら、無事終了することができました。心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

以上